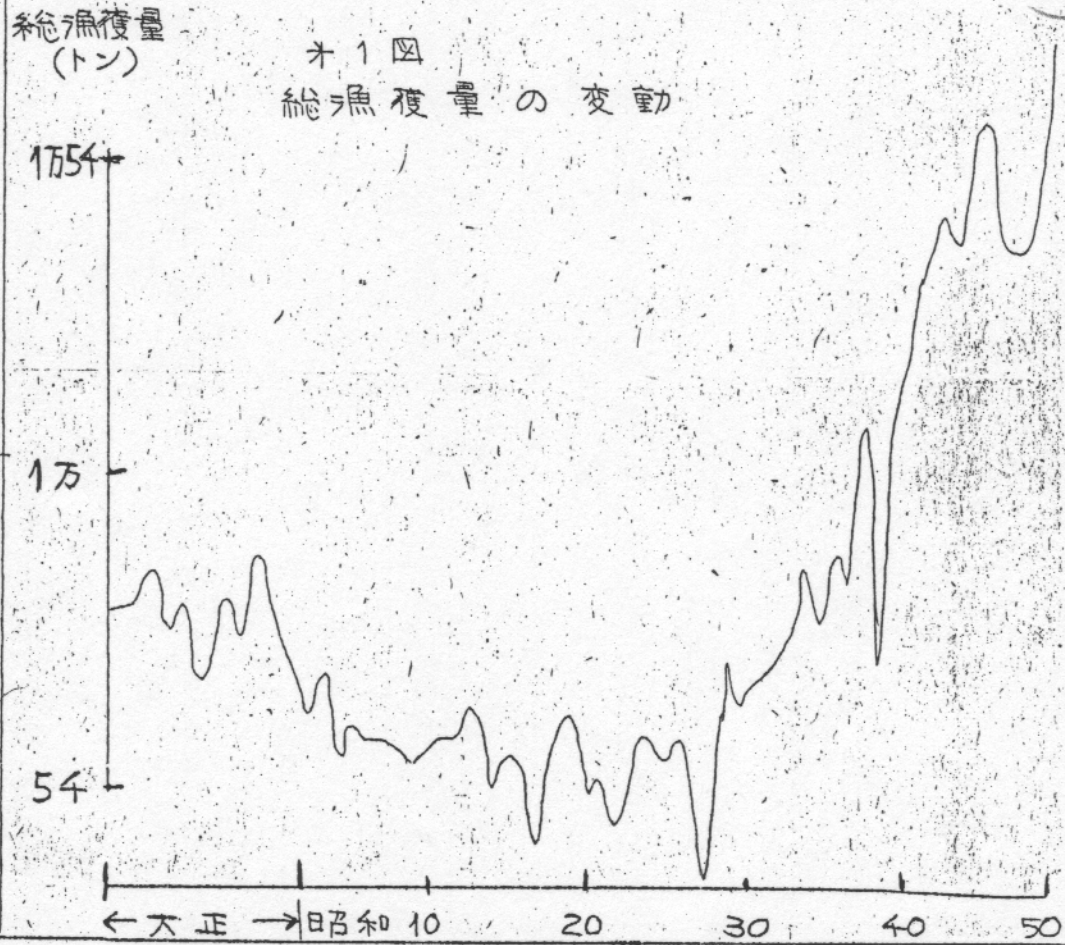


霞ヶ浦漁業の動向 2

この漁場をみてきては、公害や用裕の影響を受けて漁獲量が減少し問題となっているようです。霞ヶ浦でも名産のワカサギがめっきり減って減りに限りです。しかし、総漁獲量を見ると、最近急増しています。オ1図は、大正から昭和初年の間の総漁獲量の変動を示すグラフです。一定の傾向で増減するのではなく、複雑な変動を示しています。大正年間には昭和30年代に匹敵する総漁獲量を示し、マー84トーンです。昭和30年代は昭和20年代が漁獲量最低の期間に相当するようです。昭和30年以降は急増し、この期間の4倍にも達する漁獲量に達しています。

このように変動は何かをめぐっているのか、このように漁獲量は必ずしも増加

オ1図
総漁獲量の変動



と行っているのか、等々、漁業を研究する上で重要な問題です。

と行っているのか、等々、漁業を研究する上で重要な問題です。

の3 (170トドラ)



明治43年頃の報告書に記載されている動物プランクトンの一種のの3。この頃には相違いたらしいが、今は全くみられず、スジエビ、アマエビも最近ほとんど見られなくなった。

